

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

平成29年7月1日

7月号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



総合的な力

校長 笹原 秀之

すでにおよそ1か月前となってしまいますが、青空の下、運動会を盛大に開催することができました。多くのご来賓・地域の方々・保護者の皆様にお越しいただき誠にありがとうございました。

子どもたちは、スローガンの「協力し ベストをつくせ 南小魂」のとおり、一人ひとりの力を十分に発揮し、チーム・クラス毎に力を合わせて最後まで頑張りました。きびきびとした動き、真剣な眼差し、元気な声、明るい笑顔 一瞬一瞬の子どもたちの様子が今も思い出されます。さらに、私が感心したのは、閉会式の態度でした。1日、力一杯動いたにもかかわらず、全ての学年の子どもたちが列を整え、しっかり話を聞き、最後まで立派に参加できました。大変うれしく思いました。それは、この姿は、まさに、普段からの指導の賜物だと思ったからです。



私が南小に着任し、最初の始業式で感じたのは、待っている時の態度がよくない、話が聞けないということでした。これはどうにかしなくてはならないと思いました。それから先生方と一緒に指導を徹底してきました。そして今は、朝会するときなども静かに待ち、話を聞くことができるようになりました。

このように書くと、簡単にできたように聞こえるかもしれませんが、そこには、全ての教職員の力と働きかけがあり、その結果としての子どもの姿なのです。改めてその要因を考えると次のようなことです。

まずは、○あいさつ、返事 ○安全な廊下歩行 ○時間を守る ○靴をそろえる ○名札を付ける などを、1年間を通じて徹底できるように指導を行っていることがベースにあります。毎月の生活目標で実践して必ず児童・教師の評価をして課題を明らかにし、共通理解のもと指導を行います。



その上で、①各クラスを出発するときから黙って並んで移動をする。(教室スタート時から始まっている) ②時間に余裕をもって集まり、気持ちを落ち着かせて静かに待つ。(先に入っている人が静かだと騒ぐ事はできない) ③高学年の態度、姿勢という見本となるものがある。(高学年児童の意識が変わると、中・低学年は自然とそれに倣う) ④朝会等の司会や教職員全体で見過ごさずに指導を行うと共に認める。褒める。さらに、⑤校長としても(または話をする教職員も)話が魅力的であることを常に意識する。また、なるべく具体的な物や文字・数字などを提示して、目からも情報が入って分かりやすい話になるようにする。などを実践しています。

もちろんこの他にも、ご家庭でのしつけや指導も不可欠であることは言うまでもありません。

これらのことを1つ1つ確実にいき、総合的な結果として、静かに並んで話をしっかり聞くことができるのです。今になって思えば、その姿が運動会の中で見られたのは必然であったと考えられます。このことも含め、大成功の素晴らしい運動会であったと自負しております。

これからも教職員一同、力を合わせてよりよい南小を目指し前進していきます。

いよいよあと2週間程で夏休みです。1学期のまとめを確実に行ってまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。



南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

平成29年7月20日

夏休み前特別号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



疑問は偉大なり

校長 笹原 秀之

蒸し暑い日が続き、「花の道」には、ひまわりやムクゲの花が太陽に向かって笑顔を振りまいています。いよいよ夏休みです。

先日、講話朝会で次のような話をしました。

今日はこのボールを使って簡単な実験をしてみます。まず、このボールを落としてみます。ボールは、まっすぐに落ちましたね。すごいですね。普通？ 当たり前？
でも、このことをどうしてなのかと考えた人がいました。リンゴでね。
そう、有名な話ですが、アイザック＝ニュートンというイギリスの物理学者、数学者です。この疑問から、地球の引力に引っ張られているということ、「万有引力」を発見しました。
では、2つ目の実験。今度は2つのボールで落ちる速さは変わるのかという実験です。ピンポン玉とテニスボールを一緒に放します。どうでしょうか。
同時に落ちましたね。
この実験をピサの斜塔という傾いた塔の上から2つの鉛の球を落として確かめた人がいます。ガレリオ＝ガリレイというイタリアの物理学者です。
もう1つ。ボールを新幹線の中で落としたら、どのように落ちるでしょう。
「まっすぐ落ちると思う人。」「違う落ち方をすると思う人。」(挙手) 実は、どちらも正解です。
電車や車の中で何か物を落としたりすると、このボールと同じようにまっすぐに落ちます。
ところが、もしも新幹線の外にいる人から見るとどう見えるのでしょうか。
実はボールを放した瞬間から、ボールは進行方向に動いて、床に落ちた時には、はるか先の場所に落ちます。(実演)このように見る人の場所や条件で違う結果になります。
このことを引力とか光の進み方にも当てはめて考えたのが、アルベルト＝アインシュタインというドイツの物理学者です。光が重力によって曲がることを予想して月食の観察で確認して「一般相対性理論」として注目されました。
このアインシュタインは、子どもの頃から、「太陽の光は何でできているのか。」「光線が進むということはどういうことなのか」などいろいろな疑問をもっていたそうです。
さあ、この3人はどの人も、他の人は当たり前だと思うことに「どうして」「なぜ」と疑問をもって、予想をして、実験で確かめて、いろいろな発見をしました。
みなさんも、ふと思った疑問をそのままにしないで調べてみると、いろいろなことが分かるかもしれません。夏休み、是非いろいろと研究してみてください。



子どもたちは、楽しみながらも真剣に話を聞いてくれました。少しでも子どもたちの純粋な「あれ!？」とか「どうして?」を大事にしてもらいたいと思い、また、積極的に自由研究に取り組んでもらいたいと思い話しました。もちろん、内容は理科に限らず他教科でもかまいません。

保護者の皆様も、子どもたちの小さな疑問を大事にしてください。様々な経験を積む機会を与えていただいたりして、充実した夏休みとなるようよろしくお願いいたします。

ふしぎに思うこと
これが科学の芽です
よく観察してたしかめ
そして考えること
これが科学の茎です
そうして最後になぞがとける
これが科学の花です
(朝永振一郎)

1学期間、保護者・地域の皆様のおかげで子どもたちが無事に過ごすことができました。心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

